



Voice ジュビリー 25 新潟

切磋琢磨していける 良き仲間たちと

昨年からはまった制度である「ジュビリー5025」に参加させていただいた。これは、卒業後50周年と25周年を迎えた校友会の会員が、日本歯科大学創立記念式典に、校友会の主催で招待され、合わせてお祝いしていただく制度である。今年、55回卒業の先輩方が「ゴールデンジュビリー」、80回卒業が「シルバージュビリー」となり、我々新潟80回卒業生も招待され19人が参加させていただいた。校友会から出席者へ記念品としてシルバージュビリーにちなんでかと思われるシルバーの校章をいただき、早速、上着の胸に付けて式典に臨んだ。

初めて参列させていただいた式典は、ステージ上で3人の神主が神事を行うという予想外の厳かで神聖な雰囲気であった。これもさすが母校の110年の伝統かと納得するところであった。

次に中国・四川大学華西口腔医学院の周学東院長に名誉博士号の学位記が、陳宇教授に名誉客員教授が授与され、ご挨拶があった。実は私は20年以上前になるが、大学の医局在籍時代に華西医科大学へ留学していたことがあり、お世話になった先生方や、当時のことを思い出しながらご挨拶を拝聴させていただいた。また、式典の途中、永年勤続者の表彰もあり、同期の二宮一智先生が表彰された。登壇した彼の姿を見て、卒業後に彼と同じ医局に残った私としては感慨深いものがあった。現在も同級生の数名が大学に在籍しており、臨床や後輩の指導などこれからも大学で頑張ってもらいたいと切に願った。彼らには日頃から相談に乗ってもらうことも多く、大変感謝している。

富士見ホールでの式典が終了し、場所をホテルメトロポリタンエンドモントに移し、懇親会が開催された。懇親会の会場では学生時代に大変お世話になった多くの先生方にお会いすることができた。当時の話や近況などを交えながらご挨拶させていただ



た。また、ゴールデンジュビリーの先生方ともお話をする機会が得られ、その充実感や堂々たる風格に圧倒され、自分もまだまだ弱音を吐いている場合ではないとつくづく思い知らされた。

同級生の中でも普段からよく会っている者から、卒業後初めて会う25年ぶりの者までおり、その懐かしい顔を見て声を掛け合い語り合った。学生時代のことを話していると、忘れていた当時の感情や、考えていたことが次々に思い出され、タイムスリップしていくような感覚になっていった。試験対策と銘打って4～5人で集まり、徹夜しながら別の話で盛り上がり、ただの飲み会になっていたような、よくある話から、とてもここには書けないような伝説として語り継がれていることも話題に出てきて、今では懐かしく笑いながら話すことができた。懇親会終了後には、都合によりジュビリーに参加できなかった面々も加わり、さらに盛り上がり、当時の話に花が咲いた。

ジュビリー25に参加させていただき、この25年間を具体的に振り返る良い機会をいただいたと思う。私はここまで、ただ我武者羅に走って来たような気がしているが、まだまだどこに向かって行けば良いのか試行錯誤の毎日である。お世話になった校友の先生方のお話や助言から、新しい気づきがあり大変有り難かった。同級生との会話は、利害の枠を超えた相談ができ、これからも互いに切磋琢磨していく良き仲間たちだと実感した。道を見定めそれに向かって走っている同期の面々と相対し、何年たっても好きなことが言い合える同級生たちとの再会は、その大切さを再確認できた良い機会であったと思う。このような貴重な機会をいただき、校友会ならびに日本歯科大学に深く御礼申し上げます。

(蒲澤 崇・80回記)